

# 6月期の台風に対する農作物被害防止に向けた技術対策

令和6年(2024年)6月5日  
山口県農林水産部

## 1 水稲

事前対策	事後対策
<p>1 迅速な入排水ができるように、入排水口や水路などの点検・整備を行う。畦畔の点検・補修など漏水対策を行い、湛水状態が保てる状態にする。</p> <p>2 強風による植え傷みや脱水症等の風害を防ぐために、深水状態で管理する。</p> <p>※ 湛水管理については水利状況に応じ、可能な限り対応すること。</p>	<p>1 台風通過後は通常の水管理に戻す。</p> <p>2 潮風害が発生した場合は、速やかに洗い流す。</p> <p>3 干拓地等で海水流入が生じた場合は速やかに排水し、清水を入れ、かけ流しを行う。</p>

## 2 大豆

事前対策	事後対策
<p>1 は種前のは場では、作業が円滑に行うことができるように、額縁明渠等の排水対策を徹底する。</p> <p>2 迅速な排水ができるよう、排水口や水路などの点検・清掃を行う。</p> <p>3 畦立溝の着実な連結や排水口への連結を行い、は場外排水の円滑化を図る。</p>	<p>1 台風通過後は速やかな排水に努める。</p> <p>2 発芽前に冠水し、発芽障害を受けた場合は、播き直しを行う。</p>

## 3 麦類

事前対策	事後対策
<p>1 収穫直前のもので、ライスセンター等乾燥調製の対応が可能なものは早く刈り取る。</p>	<p>1 台風通過後は速やかな排水に努め、穂発芽等による品質低下を最小限にとどめる。</p>

## 4 施設野菜・施設花き・施設果樹

事前対策	事後対策
<p>1 防風ネットの点検・補強を行う。</p> <p>2 ハウスの点検・補強を行う。</p> <p>(1) ハウスバンドの締め直し、両妻面の補強、巻き上げの固定</p> <p>(2) サイドビニール、天井ビニールの点</p>	<p>1 施設各部の破損、緩みなどを点検し、補修する。</p> <p>2 病害の予防防除を行う。</p> <p>3 施設が浸水した場合は、速やかな排水に努める。</p>

<p>検、修繕 (3) 筋交い、補強支柱の取り付け 3 換気扇があれば、ハウス内を減圧する 4 施設周辺の片づけを行う。 5 停電に備え、発電機などの確保、準備をしておく。 6 進路や風の強さなど、今後の気象情報に注意し、必要に応じて被覆の除去を行う。</p>	<p>4 畝上まで冠水した場合は、マルチを除去し、畝を乾かすようにする。</p>
--	--

## 5 露地野菜・露地花き

事前対策	事後対策
<p>1 防風ネット・支柱、フラワーネットの点検、補強を行う。 2 収穫期の果実・花きの若どりを行う。 3 苗床（イチゴ等）、定植直後の本ぽではべた掛け資材による被覆を行う。 4 潮風害に備え、用水の確保と動力噴霧機の準備を行う。 5 畦立溝の着実な連結や排水口への連結を行い、ほ場外排水の円滑化を図る。 6 定植、間引き作業を延期する。 7 リンドウの遮光資材を一時的に撤去する。</p>	<p>1 ほ場の速やかな排水に努める。 2 支柱の立て直し、倒伏した株の引き起こしを行う。 3 傷果・葉、破損枝を除去する。 4 播種直後や生育初期のものは、被害状況により播き直しを行う。 5 はね上がりで、葉裏等に泥が付着している場合はよく洗い流す。 6 潮風被害後、速やかに散水する。 7 病害（特に軟腐病等の細菌病）の予防防除を行う。 8 草勢回復のため、薄い液肥の葉面散布を行う。（ただし、潮風被害があるほ場では散水による塩分の洗い流しを優先する）</p>

## 6 露地果樹

事前対策	事後対策
<p>1 防風ネット、果樹棚、マルチなどの点検、補強を行う。 2 潮風害に備え、用水の確保、動力噴霧機の準備、動力源の確保に努める。 3 幼木や高接ぎ樹の支柱を点検し、補強する。 4 収穫期に近づいているものは、状況によって早期収穫を行う。 5 病害の事前予防散布（カンキツかいよう病などの細菌病）を行う。 6 排水路の点検等を行う。</p>	<p>1 潮風被害樹へ速やかに散水を行う。 2 枝折れ除去、倒伏木の引き起こし処置を行う。 3 断根樹に対する速やかな灌水、敷き草を実施する。 4 停滞水のほ場外への排水を図る。 5 病害（特に細菌病）の予防防除を行う 6 施設各部の破損、緩みなどの点検・補修を行う。</p>

## 7 畜産

事前対策	事後対策
<p>1 畜舎や堆肥舎は、風雨に対する補強と周辺水路の整備を行う。</p> <p>2 搾乳施設や自動換気装置等は、停電に対応できるよう発電機の準備を行う。</p> <p>3 飼料畑は、排水路の点検、整備を行い速やかな排水ができるようにする。</p> <p>4 断水の可能性がある場合は、最小限の飲水量を確保する。</p> <p>5 家畜ふん尿の流出防止のため、堆積場所の移動等の対応を行う。</p>	<p>1 畜舎や堆肥舎が浸水した場合は、通風換気などにより乾燥を促進する。</p> <p>2 畜舎消毒等による疾病の発生予防を行う。</p> <p>3 収穫適期頃の牧草類などは、天候の回復状況を見て適期に収穫する。</p> <p>4 飼料畑は、速やかに排水を行う。</p>